

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称
令和5年度第2回美里町生活支援体制整備協議会
- 2 開催日時 令和5年8月25日（金）午後3時から午後5時まで
- 3 開催場所 美里町駅東地域交流センター 和室
- 4 会議に出席した者
 - (1) 委員 小野俊次会長、渡邊かおり副会長、加藤芳郎委員、角田フミコ委員、佐々木義夫委員、万城目将晴委員
 - (2) 事務局 美里町長寿支援課 五十嵐華絵、秀城百香、鈴木あらた
美里町社会福祉協議会 山口保広、永沼威雄、高橋ゆかり、青木真理
- 5 議題
 - (1) 開 会
 - (2) 会議録署名委員の選出
 - (3) 報 告
 - ①高齢者生活支援体験事業「ぼくたち・わたしたち 暮らしのてっだい隊」について
 - ②暮らしのサポーター養成講座・いきいき元気サポーター養成講座について
 - ③生活支援コーディネーターの活動について
 - (4) 協議事項
 - ①地域のありたい姿について
 - ②地域の現状について
- 6 会議の公開・非公開の別 : 公開
- 7 非公開の理由
- 8 傍聴人の人数 : 0人
- 9 会議の概要
 - (1) 会議録署名委員の選出 渡邊かおり副会長、万城目将晴委員

○事務局（高橋） 定刻になりましたので、これより令和 5 年度第 2 回美里町生活支援体制整備協議会の方始めていきたいと思います。開会にあたりまして小野会長ご挨拶をお願いいたします。

○小野俊次会長 こんにちは。暑い時期ですが熱中症にならないように、気を付けていただきたいと思います。今日もテーマがありますので会議の進行をよろしくお願ひしたいと思ひます。

○事務局（高橋） では、次第に沿って進めていきたく思ひます。会議録署名委員の選出について皆さんにお諮りしたいと思ひます。

（事務局一任の声あり）

ありがとうございます。では、会議録署名委員に渡邊副会長と万城目委員にお願ひしてもよろしいでしょうか。よろしくお願ひします。では、会議録署名委員の選出に続いて報告に入ります。

令和 5 年度児童による高齢者生活支援体験事業「僕たち私たちくらしの手伝い隊」こちら 1 ページが実施要綱になっております。こちらの事業ですが、夏休みに小学 3 年生から 6 年生の子供たちを対象にして実施した事業となっております。8 月 8 日、9 日に実施をしております。

この事業は夏休みの期間を活用しまして、地域の高齢者の日常に触れることから、交流と人と繋がりについて学び相手を思いやる心を育むことを目的に開催をしております。

1 日目は、高齢者の体や心の変化、年をとったからできることについて子供たちと一緒にワークをしながら、理解を深めました。また、子供たちに通いの場を知ってもらうため動画を使って、通いの場の普段の様子を見てもらいました。2 日目は不動堂 4 区の通いの場にお邪魔して、一緒に百歳体操を行った後に子供が参加者にインタビューしました。子供たちは、高齢者の日常に触れることで、高齢者の生活の一部を知る機会になったと思ひます。コロナ前ですと、高齢者の自宅に訪問しまして、暮らしの手伝いとしてお風呂掃除や掃除機かけをしていましたが、感染対策の観点から高齢者宅に訪問することにまだ不安があるため、形を少し変えて実施しています。今まで学校や家族とかの繋がりだけであったところに加えて新しい繋がり広がったことで、思いやりの心や感謝の心が育まれた様子でした。

子供たちの感想を一部こちらに抜粋して記載しておりますが、これからは近所のおじさんおばあさんに優しく元気に接したいですという声も聞こえてきております。また、訪問させていただいた不動堂 4 区の方からは、子供たちと久しぶりに交流して、元気をもらえたという声も聞かれておりました。子供たちとのコミュニケーションから活力がえられた様子がありました。

また、参加した子どもの保護者に申込理由を確認すると地域の高齢者と交流する機会があまりないので、夏休みのいい体験になると思ひ参加したという声もありました。世代間交流の機会を提供することができたと思ひます。また、保護者も世代間交流を重視している現状がわかりました。この事業を通して課題も見えてきました。地域の中で、多世代が関わる機会が減少すると、コミュニケーションがなかなか図れず、お互いの暮らしぶりを知ることができないため、高齢者は高齢者だけと子供は子供だけというような形で、縦割りの交流となってしまうことが課題として見えてきました。世代間交流の効果はたくさんあるため、効果について啓発することと、子供会と自治会の繋がりづくりなどを意図的に行い世代交流の機会が作れるように働きかけしていきたく思ひております。

報告は以上になります。ここまでで何か皆さんからご意見等ありますでしょうか。

○角田フミコ委員 私の住む地域も子供の数が少なく、地域で関わるのが少ないです。孫と同居していない方も多く、年に1回ぐらい来るくらいで今回子供たちが百歳体操に来てくれて喜んでいました。子供たちがいるとやっぱり違うよねっていう話をしていました。

○事務局（高橋） 世代間交流が各行政区で行われていくことが理想ですが高齢者は高齢者、子どもは子どもでの交流となってしまうところがあります。今後は世代間交流について働きかけをしていきたいと思えます。

続いて2のくらしのサポーター養成講座、いきいき元気サポーター養成講座についてです。暮らしのサポーターですが、地域や暮らしのあらゆる場面において、ニーズキャッチをする視点を仲間とともに競合しながら、地域課題の解決に向けて取り組む人材を養成していきたいと思っております。今年度は生活支援の部分では、昨年度の受講者にその後の活動を伝える機会を第4回目に設けています。各日程、毎週火曜日の午後で開催しますので、委員の皆さんもご都合が合う際は、会場に来ていただければと思えます。

次にいきいき元気サポーター養成講座です。こちらは今年度から新しく始める講座になっており、まだ案の段階となっております。

現在、町と一緒にいきいき百歳体操を通した通いの場を推進しております。その中で、健康づくりや介護予防と一緒にサポートしてくれる方が地域の中にもいるといいなという思いから、講座を開催することになりました。こちらの方まだ募集はしていませんが、11月から12月、火曜日の午後で開催しようと思っておりますので、同じく、委員の皆さんのご都合が合えば会場に来ていただきたいと思えます。くらしのサポーター養成講座、いきいき元気サポーター養成講座について、委員の皆さんからご質問やご意見はありませんか。

（質問、意見なし）

では続いて3の生活支援コーディネーターの活動についてです。

9月1日に「おげんきですか」を発行予定となっております。

現在、移動販売の「とくし丸」が町内を走っています。3月ぐらいに町ととくし丸の事業展開について話をする機会がありました。エリアが決まっていたのでエリア内の民生委員さんにお話を伺い、現在、毎週火曜日の午後には和多田沼と谷地中を走っていただいて、買い物の機会となっている状況です。委員の皆さんも買い物で困っているという話を聞く機会があるかと思えますので、エリアは限られていますが、そういった声が聞こえた際は、教えていただければと思えます。

続いて、「一緒に行くすぺ大作戦」についてです。移動販売の話をしていく中で、地域の中で買い物や移動に困っている方はどのくらいいるのか、具体的にどのようなことに困っているのかという話し合いを重ねてきました。話し合っていくと家族や何かしらのサービスで対応していることが見えてきましたが日常に楽しみがないと、身体機能も低下し、フレイル状態になってしまうことが考えられます。そこで一緒にお出かけするような機会を作ることができないかということで行政区や地区社協、事業者と一緒にでかける機会を作りたいと思っております。委員の皆さんにもお声がけをさせていただくかもしれませんので、その際に、ご協力いただければと思えます。報告は以上になります。皆さんからご意見等はありませんか。

○佐々木義夫委員 私、朝晩と送迎をやっていますが、買い物は家族に任せられていくとかでなんとかなっている方もいると思えます。要介護認定を受けてない人は

元気で自分で買い物に行くなどどうにかなっていると思います。

要介護にならず元気で過ごせる時間をどうやって長くしていけるかということではないかと思っています。活動をきちんとやっていけば、地域に戻せる人達が多いと私は思います。だからその人たちにもデイサービスに通うだけではなく、地域での取り組みも使えるといいと思っています。要支援 1, 2、要介護 1 の方は、ケアを提供すればするほど元気な方に向かっています。それをやめてしまうとまた戻ってしまうので、それをやり続けるしかないと思います。でも、ケアマネジャーがついたからいいではなく地域で暮らせる仕組みを考えた方が、元気で暮らせると思っています。

○事務局（高橋） サービスと地域の支え合いの両方で地域で暮らせるといいと思いますので、そこを目指していきたいと思っています。

○佐々木義夫委員 配食サービスをやっていると思いますが、週 2 回ではその他はどうするのかという問題がある。近くにスーパーがあればいいが、高齢者夫婦や一人暮らしでは今年のような暑さでは外に出るだけでも大変ではないかと思う。個別に支援できればいいが難しい。例えば、登録している人がいて活動している仕組みがあれば、紹介することができる。そういった仕組みを作っていくことも考えていけるといいと思う。

○事務局（高橋） 暮らしのサポーター養成講座を受講された方が地域の中での活動につながることを期待して講座を開催していますがなかなか難しい現状です。こちらも視野に入れながら働きかけを続けたいと思います。では続いて 4 の協議事項に入ります。協議事項 (1) 美里町のありたい姿について、長寿支援課の秀城から説明します。

○事務局（秀城） それでは、美里町高齢者福祉計画及び第 9 期介護保険事業計画における美里町のありたい姿、目標について説明します。

～資料 1, 2 について説明～

○事務局（高橋） では、説明を聞いて、率直な感想や思ったこと、印象に残ったキーワードなどあれば、お話を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

○小野俊次会長 認知症のことや認知症の人のことを考えながら聞いていた。また、認知症の人はどんなことを望んでいるのだろうかと考えた時に、話し掛けられたり、一緒に何か行動したり、一緒に食事したりとかを望んでいると思うし、最後にある認知症に対するイメージについても私たちが考えていかなければいけないことであると感じました。認知症の人は地域の困った人ではないです。一般の人、元気な人が認知症の方をどんな風に見ているかということ「こうなりたくない（認知症になりたくない）」と思っているのが本音。一般の人、元気な人がいろいろなことに参加できるような仕組みがあればいい。

友人で認知症になった方がいて、デイサービスに行っているがとても楽しいと言っています。認知症だと本人から言われなければ分からなかった。デイサービスに行きながらも地域での活動もできるような環境であればいいと感じています。

○事務局（高橋） A さんを見れば認知症であってもなくても A さんであることは変わりないです。そういった考えがもっと広まると良いと思います。

○小野俊次会長 そのように偏見がなくみんなが接してくれるとよいです。

○佐々木義夫委員 偏見をもっている人はある程度いるのは確かだし、本人も同様に隠したいという気持ちを持っていると思う。近くのデイサービスに行きたくないと思う人もいます。本人がそう思うなら、他の人に関しても同じように思うと思う。

認知症は脳の病気、身体的な病気と同じで基本的には病気である。その病気を悪くしないために通うところがデイサービスであると考えてもらえるとよいと思う。

○事務局（高橋） 渡辺委員いかがでしょうか。

○渡邊かおり委員 自分が望む生活というところが出ですごく表現がいいと思いました。難しいとは思いますが、取り組んでいけるといいと思いました。

○事務局（高橋） 角田委員いかがでしょうか。

○角田フミコ委員 美里町のありたい姿という理念を目指すことはいいですが、目指すまちの姿の中で、高齢者がいつまでも自分がしたい望む生活とあるが、ひとりひとり望む生活は異なるのでどうやって叶えていくのだろうかと感じました。ひとりひとり違う望む生活がある中で地域でそれを支えることはできない。具体的に何をするのか、目指す姿を達成するのは難しいと感じました。理念とか目標を掲げるのはいいですが、具体的に何をするのかと思った。なかなか見えてこないと感じた。

○事務局（高橋） 角田委員が言うように、望む生活は何ですかと言われても答えることは難しいと思います。

○角田フミコ委員 民生委員をできなくなった時、75歳を過ぎてから何をしたらいいのかと思う。趣味はないし、昔やっていた料理作りも意欲がなくなっていくと思うと何をしたらいいか分からない。地域参加というけれども何をしたらいいのかと恐怖心を感じてしまう。

○小野俊次会長 やることはいっぱいある。自分で探すことが重要だと思います。

○事務局（高橋） 望む生活と言われても改めて考える機会もないし、具体的に自分がどうやって過ごしていきたいかと考える機会はないと思いますが、一方で介護保険制度を使う際にケアマネジャーと一緒にケアプランを立てます。その時に目標を立てます。本人もこうなったらいいとか、「何々するためにこうしたい」ということと、望む生活を考えることは同じことではないかと思えます。考えるきっかけになるといいと思います。

みさと元気塾でも目標を立ててもらいながら介護予防に取り組んでいます。

○事務局（青木） 目標を持ってもらう練習として望む生活という言葉ではないですが、ありたい姿、なりたい姿ということを皆さんひとりひとりに書いてもらいました。どこまで生きられるかわからないけれども誰かにお世話にならないで自分の生活をしていきたい、住み慣れた地域で生活を続けたいという内容が多くあったと思えます。

○事務局（高橋） 望む生活というのととても大きく、難しいかもしれませんが身近なものでもよいと思えます。

○角田フミコ委員 望む生活と言われるとまず出かける先があって、やることあって、誰かと交流して、役割があってと考えてしまうと何も出てこない。元気でひとりで自立した生活をしていけたら良いですが、そのために何をするかということが見えてこないの、75歳や80歳を超えてから考えるのではなくもっと早い年代で不安をなくすために考える機会やトレーニングする機会があればいいと思う。

○事務局（高橋） 望む生活をするために何をしたらいいかを若い時期から具体的に考えることが大切ということですね。

○加藤芳郎委員 角田委員が話していることはよく分かります。今、支援する側の会議になっているので、支援される側、高齢者のことをもう少しこの中に入れられるのであれば、支援体制のことだけではなく高齢者本人の意見も資料の中に入れることでもっと具体的な話し合いになるのではないかと感じました。デイサービスに

行きたいとか本人の気持ちがはっきりしているのであれば、介護度に関係なくみんなが利用できると思うのではないかと聞いていました。支援を受ける側の人たちの本質を入れてもらうことを希望したいと思います。

○万城目将晴委員 3番のところに高齢者や認知症がある人への偏見と記載があります。偏見を感じる部分もあります。ひとりひとりが元気になる活動の推進という点でシルバー人材センターでは80歳になった方も最近、働きたいと入ってくる方も多くて年をとっても働きたい、体を動かしたいという方も多いので一つの介護予防になっているのではないかと聞いています。

○小野俊次会長 シルバー人材センターだと技術とか才能がある人が働くというイメージがあるし、年をとっても働ける人はいいが、そういう人ばかりではないと思う。どうしてもひとりの趣味に偏ってしまうと思う。介護度に関係なく、どんな人でもデイサービスに行けるようなことはできないのかと思う。

○事務局（五十嵐） 現在もデイサービス以外で「みさと元気塾」や「通いの場」において介護予防をすすめています。その方のありたい姿、望む生活に近づくために何が重要かということをも町、社協、ケアマネジャー、事業所などと話し合いながら、一緒に考えていけるとよいと思っています。

○小野俊次会長 何かに参加できる人はいいがひとりで籠ってしまう人もいることが課題。そういう人も結構いると思っています。

○事務局（五十嵐） 家族は本人をデイサービスに行かせたいけど、本人は行きたくないという相談もあります。本人の思いをしっかりと聞いていくことが大切であると思っています。そのためにも相談する窓口がたくさんあることを町民のみなさんに知ってもらい、気軽に相談できる体制ができると良いと思っています。

○加藤芳郎委員 それぞれに、これまでの生活で特技があると思います。特技を生かしてもらえんと思います。例えば、大工さんだった方にここ直してとお願いするなど。みんなに感謝されること、ありがとうと言われることに対して、人間は心の安定感が出てくると思います。年をとったから、何もかもできないと本人も考えてしまいがちで、周囲も頼まなくなってしまうがやりたいことを引き出してあげる関わりも必要ではないかと思っています。高齢者が積極的に動いて、やりたいことをやれるような考え方ができるように関わることも必要。支援者側だけで何かをやるということには無理があると感じています。年をとったからやれることもあると思っています。

○事務局（高橋） 次に委員の皆さんの望む生活はどのような生活か、ご意見をいただきたいと思っています。望む生活というと難しいと思いますが、大事にしていることは何でしょうか。

○小野俊次会長 「これから何かしたい」とはあまり考えることがないです。欲を言っても仕方ない。今の暮らしを維持していければいいと思います。いつまでできるかわからないが自分で出かけることができ、会いたい人に会うような普通の暮らしを続けられたらいいと思います。

○加藤芳郎委員 コロナ前の生活ですね。三味線を弾いたり、みんなといろいろなところに行ったり、できればいいなと思っているがそれはもう少し先かなと思っています。どんな人でも若い時にやっていたことがあり、その話を聞いていくことでやりたいことが見えてくると思います。若い時のようにできなくとも活かす場があると思います。

○事務局（永沼） 基本理念にもその人が持っている力を活かすことが重要である

という内容になっていると思います。ひとりひとりが持っている力を引き出す、発揮してもらう仕掛けを考えていく、そこから地域のつながりを考えていくことだなと感じました。加藤委員の話している内容とつながることがあると感じました。

○事務局（高橋） 渡辺委員の望む生活はいかがでしょう。

○渡邊かおり委員 社会参加という話をしますが、その人にとっては家にいることがいいという人もいますので人それぞれなのかなと思っています。今の暮らしを維持するという事になると感じました。

○加藤芳郎委員 地域には、「私はひとりでもいいから」と人の中に入らない人がいることも現実。本人はひとりがいいというのが周りは心配する。しかし、無理強いすることはできないと思います。

○小野俊次会長 家にずっといた人が昔の友達から一緒に散歩しようと声をかけられて、散歩を始めた方もいます。無理強いはできないがちょっとしたきっかけで人の中に入っていけることもあると思いました。

○佐々木義夫委員 まずは自分の好きなように好きなことをやりたいというのがあがるがそのためには健康でないとダメではないかと思っています。年をとっても健康な方は運動をしていると思うので、運動して健康でいて好きなことができるかと思っています。運動と言っても特別なことではなく、草取りして、昼になったら休憩して、また草取りしてと体を動かすことがいいかと思っています。今は外に出ることができて情報があるからいいが、車を手放したときに情報が入ってこなくなるのではないかと思うと不安もあるので孤立しないような仕組みもあればいいかと思っています。

○小野俊次会長 健康でいるにはどうしたらいいかということですね。

○事務局（青木） 健康でいるために「運動」「栄養」「社会参加」が重要であると声掛けしています。

○事務局（永沼） 健康でなくなるとそこで終わりかというところではない、前と同じようにはできないが似たようなことをできるように何かがあれば、望む生活につながっていくのではないかと考えています。

○小野俊次会長 望む生活はそれぞれ、「私はひとりでもいい」という人もいます。社会参加はひとりではできないが、町や地域等で集まってその人の望むことは何かと話し合うことで何かきっかけを見つけることができるかと思っています。80歳代でシルバー人材センターで働いて、地域でも一生懸命やっている方もいます。地域の方から何かお願いされると快く引き受けてくれる。それが健康を維持する秘訣なのかもしれない。

○加藤芳郎委員 特技でなくとも当たり前のできる人が、高齢者の中にもたくさんいるかと思っています。そういったことを見つけて、引き出すことができればいいかと思っています。支援者側だけがやるということではなく、高齢者の力を借りたい、お願いしたいということをお願いすることで何か出てくるのではないかかと思っています。

○万城目将晴委員 健康だからできることがあると思うので、健康でいたいと思います。

○角田フミコ委員 好きなことがあるのでそれを続けたいと思います。民生委員の役割を終えた時に社会参加をどうしたらいいか、出かける先をどうしようかと不安に思っています。

○小野俊次会長 区長をやっているときは社会参加しようと声をかけていた。ひと

りでも好きなことを続けることが重要だと思います。仲間も増やせられればいいと思っています。

○角田フミコ委員 ひとりでしかできないことが好きな際には社会参加にならないのではないかと。私が好きなことは家庭菜園、同じ趣味の人が近くにいない。

○加藤芳郎委員 自宅前の人を通る近くに花を植えて、通る人に声をかけたり、声をかけられたりすることで交流が生まれると思います。とてもいい趣味を持っていると思います。

○事務局（高橋） 元気で長生きするために「栄養」というキーワードが出ていますが注意することはありますか。

○事務局（鈴木） バランスよく、楽しく食べることが良いと思います。いきいき百歳体操後にみんなで食事をとっている行政区もありますができればひとりではなく、みんなで楽しく食べるということも大切であると思います。

○事務局（高橋） 事務局にも望む生活を聞いてみたいと思います。

○事務局（永沼） 望む生活とは何かと考えた時に趣味がないし、休日に取り組むことがないと思いました。今から活動していかないといけないのかなと思っており、支援者側の立場としては提案できる体制づくりが必要であると感じました。

○加藤芳郎委員 働いているうちから活動すること、時間のない時に時間を作ることが大切であると感じています。

○事務局（高橋） みなさんから出た望む生活のキーワードは、介護保険事業計画の3つの目標につながるところがたくさんあったと思います。望む生活は多様であると確認することができました。また、美里町の目指す姿を共有することをできたと思います。

資料3はこれまで協議会で話し合った内容をまとめたものになります。時間がある際に見ていただければと思います。

○渡邊かおり委員 働いているうちに趣味を持つことが大切だなと思いました。次回もよろしくお願いします。

○事務局（高橋） 次回の協議会は11月頃になります。ありがとうございました。

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和 年 月 日

委員

委員